

手話の法則

久保田季花, 西ヶ野杏奈, 新名健大, 山本瑠星
延岡高等学校 Nobeoka High School

Abstract

普段の学校生活の中で手話の授業がないことに疑問を持ち、少しでも多くの人が手話に興味を持つにはどうすればよいかを考えた。

まず、自分たちで手話について勉強し基本的な知識を身につけた後、実際に手話教室へ行き、専門的知識のある方にお話をお聞きしてどのような活動をしたら沢山の人に手話に興味を持ってもらい、広められるかのアドバイスを頂いた。

その後、アドバイスを下に分たちで延岡高校2年生(50名)を対象に模擬授業を行い、模擬授業の前と後で手話に対する印象がどう変わったかのアンケートを実施した。

その結果、模擬授業を行う前は手話に対してのマイナスな印象が大半を占めていたが行った後ではプラスの印象が大半を占めたため、色んな人に手話に興味を持ってもらうという目的が果たせた。

Keyword 手話 / 模擬授業 / 印象

1. 序論

(1) 研究背景

国語や英語などの言語の授業が当たり前にある中で、手話の授業がないことに疑問を持ったから。

(2) 研究の目的(or動機or意義)

少しでも多くの人に手話について興味を持ってもらうこと

(3) 先行研究

<https://www.city.hita.oita.jp/material/files/group/18/27-4.pdf> (広報ひた) 平成27年4月1日号掲載

分かっていること

- ・手話は世界共通ではない
- ・フランスのド・レペー神父が最初にパリで手話による教育を始めた。
- ・古河太四郎氏が日本で手話を確立
- ・分かっていないこと
- ・手話の成り立ち
- ・なぜ手話は作られたのか

(4) 研究仮説

自分たちが手話に対してマイナスのイメージを持っていたことから手話に対してマイナスな印象を持っている人が他にも多いと考える。手話を身近に感じることでできれば、プラスな印象に変えることができるのではないかと。

2. 調査方法

(1) 実験方法

- ① 既存の研究や文献を調査して手話の法則に関する知識を獲得する。
- ② 実際に専門知識のある人に話を聞く。
- ③ 収集したデータを分析し、手話のパターンを特定する。
- ④ ③を下に模擬授業を行い、手話の印象についてのアンケートを取る。

3. 結果

(1) 専門知識のある方に話を聞いて分かったこと

手話をやる上で大切な事が分かった(目線、表情、強弱、文末の指差しなど)。

「人」を表す手話は、他の言葉(人が行う動作)を表す手話にも使われている。

例: 泳ぐ、乗る、歩く、ダイビングなど

(2) 模擬授業をして分かったこと

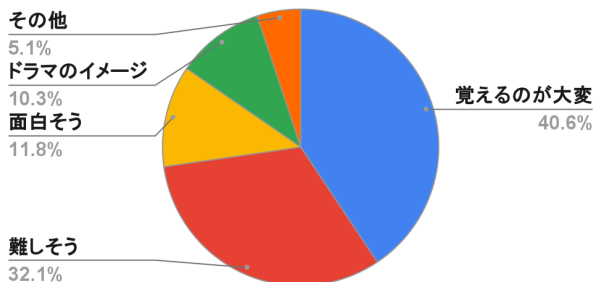
授業内容: ①挨拶 ②名前 ③誕生日

④普段使える言葉

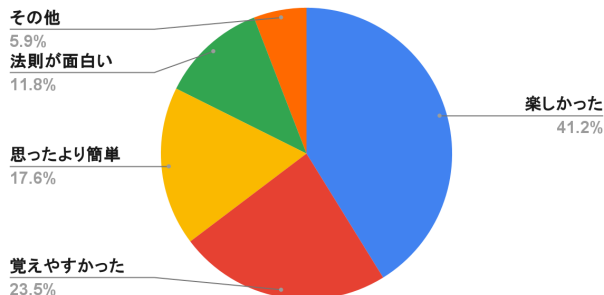
・模擬授業を行う前と後に手話への印象についてのアンケートを取った。

手話をする前(複数回答)

50人回答

**手話をした後(複数回答)**

50人回答



このグラフから、模擬授業をすることで、手話に対する印象を、マイナスな印象からプラスな印象に変えることができた事がわかる。また模擬授業をした後の意見として他にも、由来が面白い、意味と動きが繋がっていて覚えやすい、手話を知らなくてもなんとなく分かった、などの意見があった。

4. 考察

手話には文節などがあり、法則性があると考え。また、研究結果より、手話は五十音によって言葉そのものを表現するだけではなく、言葉の持つ意味を表現するものだと考える。加えて、アンケート結果から、手話は難しいという印象を持っている人が多いということがわかった。しかし手話は、聴覚障害を持つ人々と聴覚に障害を持たない人々との間で、最も効果的なコミュニケーション手段であり、両者を繋ぐ重要な架け橋であると言える。したがって、私たちは手話の学習機会をより一層増やし、これを通じて社会的な架け橋を構築していくべきである。

5. 結論

結果から少しでも色々な人に手話について興味を持ってもらうという研究の目的を果たせたと思う。アンケートの結果、手話に対してマイナスな意見を持っていた人が大半を占めていたため今後は、幼い頃から手話に対してプラスな意見が持てるよう実際に保育園などに行って手話教室を行ったり、学校内の人だけでなくそれ以外の人も手話を身近に感じることができる

ようSNSなどを使って手話を広めるための活動を行っていききたい。

6. 謝辞

研究を進めるにあたって協力してくださった延岡手話サークルわかあゆの方々、延岡高校の現3年生徒の方、ご指導をして下さった五反智大先生、アドバイザーの水永正憲様、本研究の遂行にあたり協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

7. 参考文献

長南浩人:聴覚障害者における日本語指導における手話の使用に関する実験的研究(2001)